

2010年3月

パラオに赴任して2ヶ月ほど経ったある日、私のカウンターパート氏が突如消えた(=退職した)。私にとって「突如」であっただけで、カウンターパート氏にとっては予定通りの行動であったのだろう。本来ならば、CP(カウンターパート、以下CPと略)の補充を要望すべきであったが、あえて私は補充を要請しなかった。突如消えたCP氏もそうであったが、私の配属先の状況から、警察官、消防士、あるいは移民事務官の中から「すこしITの素養がありそうな」スタッフをCPとしてあてがわれるのが目に見えていたことと、常に本業に時間をとられ、JICAボランティアとの協同作業・技術移転にほとんど時間を取れなかった、という前任の話を思い出し、すこし様子を見る意味で要請を保留してみた。 **2010年3月**のことである。

2010年2月から3月

職場の状況を観察し、パラオ全体のお役所事情・教育事情もおおよそ見えるようになるにつれ、私自身の協力活動のイメージは反比例するようにとらえどころがなくなり、困惑の度合いばかり増していた。

労務提供型の協力活動、たとえば聴こえは良いが、要するに『人件費がかからず、一定程度のレベルが期待できる、2年契約の助っ人』という位置づけは明白なのだ。

私の目に映るパラオの姿が、どうしても「途上国への技術協力・技術移転」というイメージで捉えられなくなる、そのような日々が続いた。 **2010年2月から3月頃**のことである。

「南北格差を是正するための途上国支援・技術移転」という視点でパラオを捕らえるのは、ひょっとすると間違いかもしれない、と思った。そして次のように見方を変えた。

『人口2万人・屋久島ほどの広さ』という極少行政規模で国家として振舞うために、

さらに加えて、**自立的な国家運営・国家経営を可能にするために必要なもの・こととは何か?**

そのように問題の立て方を変えてみて、見えてきたのは、

- ・日本であれば、村か町の行政規模なのに、なぜか大きくも大げさな行政組織なのか
- ・パラオ人ITプロフェッショナルはどこで養成されているか

という疑問であり、前者について云えば、アメリカの行政機構をそのままコピーしてきたが故の所産であり、後者について言えば、「どこにも養成機関はない」が現状であった。

2010年4月 「省庁横串レポート」提出

行政機構という点では、「身の丈にあった組織」への簡素化が必要で、このことはパラオ政府自身も認識している。IT分野について云えば、各省が省ごとにIT部門を持ち、機材も揃え、同じようなアプリケーションシステムを開発し、・・・要するに重複投資・重複開発の見本のような状態が見られる。一方で、機材は日本や台湾の無償援助によるものが過半であり、支援機材はフォローがほぼ皆無なため、メンテナンス不能なまま「かろうじて動いている」状態が多い。こうした現状に対して、「省庁に横串を刺す」という考え方で、パラオ官庁のIT分野の組織・制度上の簡素化案を作成してみた。極めて政治的な要素が強く、一介のボランティアには重過ぎる荷であるけれども、方向性は正しいかも知れない。配属先にレポートとして提出してみたが、予想とおり反応はなかった。各省の既得権益に関わる問題を含むので難しいだろうと思っていたし、個別の省レベルで評価・判断できることではなかった。

2010年7月

一方、人材については、**2010年7月**にPalauHorizon紙にすこし興味深い記事が出た。

「WASC」(Western Association of States and Colleges)という組織が、PCC(Palau Community College)に対して4点の改善勧告を出している。

(<http://www.mvariety.com/2010072128538/palau-pacific-news/pcc-placed-on-warning-status-by-wasc-accrediting-commission.php>) その中に、教育内容に関わる勧告・人材活用に関する勧告もあり、私には「チャンス到来」と思えた。

パラオで職業訓練ができる公的教育機関、というとPCCが唯一であり、「パラオ人SE・プログラマ」を育てる場所はPCC以外に考えられなかった。しかも改善勧告を受けて、なんらかの方策を打ち出さなくてはならないという時期である。おそらくIT分野で協力したい、と申し出れば、(改善レポートのネタに使えり)乗ってくるだろう。この時期をのがす手はない、と考えた。

2010/12/3 JICAボランティア総会の活動報告会場にPCCの学長が参観に来られた。武市調整員から「PCCの学長さんが来られてるよ、紹介しましょう」と声をかけていただき、もちろん「このチャンス逃してなるものか」とPCCの学長さんに自己紹介し、私のプランを説明した。渡した名刺を見ながら、「おもしろい。後日連絡するよ」と答えていただき、とりあえず最初の一步を踏み出した。



PCC Tellei 学長 (活動報告会会場で)

2010/12/16 白井所長がMOJの私のオフィスに来られて、「PCCでパラオ人ITプロフェッショナルを育てる」という私の構想をバックアップしよう、と。ありがたい。

2010/12/17 JICAオフィスに呼ばれ、構想を説明する。JICAオフィスとして支援する、と。本島にいる2名のIT隊員に、ここまでの経過をメールで説明する。私自身が予想していた以上に事態の進展が早く、すこしあわてた。

2011/1/4 JICAパラオオフィスで、所長・調整員とPCCにおけるITコースの件、相談。所長さんがPCCのしかるべき人物に話をしてくださって、PCC側も乗り気になっている、と。所長さんによれば、「省庁の職員にPCの簡単なトラブル対応やらネット関連の操作ができるような教育のサポート」というようなイメージをPCC側は持っているようだ、と。多少、私が持っているイメージとのズレが気になったが、大事なことは「どちらを向いているにせよ、まず一步、踏み出すこと」だ。

2011/1/12 マルキョクでPC隊員2名をピックアップし、午後2時、所長・調整員とともにPCCへ。Assistant to PresidentのTodd Ngiramengior氏はじめ、PCC側スタッフ5名と会合。こちら側の目的など、率直なところを伝えた。学内のIT関連施設・教室を見学させていただき、担当教員であるMs. Yaoch Jovannaから「Regular Courseの正規教員が圧倒的に不足している」など、現状の説明を受けた。会合後、2名のIT隊員宛に送付した、この日のまとめによると、

昨日、PCC担当者の案内で見学させていただいたPCC内の

IT関連施設についてですが、

1. RegularCourse用の教室（2室）については、各20台ほどのWindowsXPを搭載したPCが、無線LANで結ばれて設置。
2. Library内のPC：XP搭載PCがインターネット接続され、しかし、講義・実習用途に利用は（学生に開放されているため）困難な印象。
3. CE（ContinuingEducation）には、NotebookPCが10数台用意されているが、若干古い型のものであり、またNetwork環境もないようで、StandAloneな講習向き、という印象。
4. Jovanna氏に受講生の数を尋ねたところ、「現在、私のクラスは6名。多くても10名を越えることはない」と。

一方で、私たちが目論む、「パラワンITプロフェッショナル育成」のためには、

5. 将来的な課題として、できればRegularCourseにそうした目的を持つコースを設置したい。
6. 現状では、各JV・SVともそれぞれの配属先の本来業務があり、夜間・休日の時間、あるいは学年末の夏季休暇期間を活用せざるをえない

また、打ち合わせでの印象で、PCC側の意向として、

7. IT関連のRegularCourseの教員が圧倒的に不足している
→ 「現在、常勤講師はJovanna女史のみで、残りは非常勤講師だ」と。
8. 夜間のコースなどで、各省庁に受講者募集を呼びかけることは可能
→ コースのイメージとしては、
一般的な「ITリテラシ向上」 + 簡単なトラブル対応を習得する場、ということか（？）
9. CEで夜間のコース、ということであれば、
 - ・ コース開始条件（受講数の下限（昨日の話では10名））を満たすまで、多少時間がかかり、その間、テキストの準備など作業時間をとることができる。
10. しかし、CEへの参加者が、各省庁の現場オフィサーであることを考えると、「ITプロフェッショナル育成」の対象とは考えにくい。
また、受講希望数によってはコース開設の保障はない、という不安材料も。
11. RegularCourseに入り込む場合、
 - ・ 負荷が大きい（週に数日の講義の準備・試験準備・採点／評価など）
 - ・ 昼間の時間帯では各配属先の本来業務に影響がでる（18時以降のクラス、可能？）
 - ・ 単に「不足しているIT関連教員」を補充する、という位置づけに終わる危険性
 - ・ アシスタントとして入り、講義の進め方・受講者のレベルなど知る機会として利用するという考え方もある。ただし、固定化されて、労務提供型に陥る危険性も。また、雑役処理担当になってしまう危険性も。

いったん固定化されると、そのスタイルをぶち破るのは難しい → 慎重に。

JICA パラオオフィスから、マルキョクの2名の隊員について、当プロジェクトの作業などで上コロールが必要なときはコロール前後泊を認める、とJICAオフィスからお話があった。2名の隊員についてはその都度私がピックアップするつもりでいたので、たいへん有難いサポートの申し出だった。

2011/1/21 PCCでMs. Jovanna と面会。 授業見学の希望を伝え、許可をいただく。 Ms. Jovanna が授業を担当する日をえらんで、2/2 に見学日程を設定。

2011/1/28~29 夜中3時すぎ、PoliceStation から電話で起こされる。

「We need your help. DB Server is down because of power failure.」と。

真っ暗な中、PoliceStation へ出かけ、サーバールームでDBサーバーの再起動をおこなって5時前帰宅。

(帰宅後、ふと思った、「夜中3時ってここでは外出禁止時間帯では? ま、警察の呼び出しだからいいか・・・」)

司法省の中で誰か素質のありそうなスタッフを見つけて、こうしたトラブルシューティングの訓練を施し、自立的な運用を目指す、というのが、おそらくは正攻法なのだろう。しかし、長い眼でみて、パラオに必要なのは、そうした局所的な対症療法ではなく、IT インフラベースの根本治療ではなかろうか、ということで、今は『パラワンITプロフェッショナル』をどう育てるか、に注力したい、と考えている。そのためには、配属先・司法省では『労務提供型』に徹しきる。

2011/2/2 マルキョク隊員2名とともに、PCCで授業見学。

Ms.Jovanna の授業を3コマ、見せていただく。

9:00 ~ 9:50 Operating System & Networks

10:00 ~ 10:50 Database Management

11:00 ~ 11:50 Visual Basic Programming

学期がはじまったばかり、ということもあってか、座学のみ。

Ms. Jovanna が前回授業の復習のための質問をいくつか投げ、受講生が答える。 そのあとは、この日のテーマに沿って、ほぼ一方的に講師の説明が続く。 Ms.Jovanna は米国留学経験を有するだけあって、ネイティブとかわらない英語を話す。時々聞き取れなくなる私とは違って、受講生はほぼきちんと聞き取っており、突然の質問にもしっかり答えていた。

授業内容については、例えばDatabaseManagementでは、今回「テーブル定義」についての学習であったが、フィールドのネーミングルールについて触れるだけで、実務レベルで最も重要な「正規化の原則」についてはふれることなく終わっていた。 もう一步突っ込んでほしいな、というのが正直な感想。

まだ開講間もないので座学中心、であったのか、そもそもPCCのIT関連講座が座学を中心として組まれているのか、授業を一回見学しただけでは何とも判断できないが、多少「知識偏重」という危惧を感じさせる講義ではあった。

授業見学のあと、マルキョクのJV2名と今後の作業の進め方について相談。

焦点は、「レギュラーコースにするか、CEコースにするか」で、レギュラーコースの場合、当然受講生の評価(要するに成績つけ)などの諸作業をともなうことになるし、PCCとしても全く実績のないJICAボランティアにいきなりレギュラーコースを担当させることにはリスクを感じるはず。一方、CEコースでは、設備に

問題があり、また受講生もおもに社会人を対象とする、日本でいうところの「生涯学習センター」的なイメージがあり、私たちが目指す「職業訓練の場」とは微妙にすれちがう可能性を感じる。この点については結論を急がず、保留とした。

2011/2月～3月

2/2 の授業見学のあと、お礼を兼ねて、こちら側の考え方を伝え、我々として可能なサポートを「提案」の形にまとめて提出した。

以下、そのときのレター；

February, 8, 2011

RefNo. [JICA_IT_2011_002](#)

Mr. Todd Ngiramengior
Assistant to President
PALAU Community College
P.O. Box 9, Koror, Republic of Palau 96940

Dear Mr. Ngiramengior :

We thank you for giving us an opportunity to visit and see Ms. Johvanna's classes at PCC on Feb. 2. Her lecture gave us a deep impression and students seemed to us listening to her lecture very attentively.

After visiting PCC, we, three JICA volunteers, had a meeting to discuss how we can plan to support IT related courses at PCC.

In the lecture description sheets, we found that there's no course in this semester on Web related class and trouble shooting class. And as we are professional computer engineers but non-professional teachers, we'd like to have a class with case study style, in other words, practice oriented courses.

As you know, we are now assigned to ministries in PALAU and have daily job until 5 o'clock and two of us are working in Melekeok, so we can support only in the evening, on weekend or during summer session, but we have a strong hope to raise up professional IT engineers of Palauan youth, so we are looking forward to have a class in regular course for youth who have a desire to be professional software engineers.

Once we had a chance to see a room and equipments of CE(Continuing Education) course.

We found that it might be difficult to make practice oriented course with current equipment in the room for CE course. If we can use rooms like RRIU Room2 with enough equipment for practices in CE courses, we can plan some courses in CE, for example, trouble shooting class with practices on PC using local network environment. For such courses, we can expect officers in charge of IT management in ministries to come for continuing studies. Even students in PCC can join in these CE courses, but as no credit may be given to them in CE courses, we may find it difficult for students to come and join in CE courses.

I wonder whether it may be possible or not that we may have a class in regular course in the evening where students in PCC can join in to get credits and government/private sector staff for continuing study can also join with some fee and no credit (just like in CE course). Can it be possible?

私たちからのコース提案

In our discussion, we selected some titles which we can offer to support;

1. Windows trouble shooting (practice oriented study)
 - 1-1 Have training to read and understand what alert messages tell us
 - 1-2 Study appropriate and necessary steps for trouble shooting
(using actual troubles which we volunteers have met in ministries)
 - 1-1-1 List up points to be checked
 - 1-1-2 Narrow down the range of fault/trouble
 - 1-1-3 Check all points in the range narrowed down, in the appropriate order

2. Web system development (practice oriented study)
 - 2-1 Study basic HTML and CSS with practices
 - 2-2 Study Web site design with practices
 - 2-3 Study Web application with xampp environment
(using Apache, MySQL/postgreSQL and PHP)
 - 2-3-1 Basic Apache settiing
 - 2-3-2 Basic DataBase design (including Normalization)
 - 2-3-3 Basic SQL(DDI and DML)
 - 2-3-4 Basic Web Programing using PHP(including MVC pattern and basic OOD)

We might be so grateful if we could have next meeting to discuss about what we can do and what you can accept.

Sincerely,

2011/3月末

上記のレターを発信し返事を待ったが、反応がなく、2週間後、メールでそれとなく様子をうかがってみるも反応がなく、3月下旬までに3回PCCを訪ねてみたがTodd氏にもJovanna女史にも会えず、4度目の訪問でやっとTodd氏をつかまえることができた。Todd氏はあらかじめ決めていたのか、CE (Continuing Education 日本で云う『生涯学習コース』のような) コースの学部長に私を紹介してくださった。



PCC CE 学部長 Mr. Willy Wally

CEコース学部長のWally氏は、たいへん気さくな紳士で、私たちの提案内容に賛同してくれ、即座にGOサインが出た。(3/29)

コース新設を要請するための所定の様式をいただき、2つのコースの様式を整えて提出した。

いよいよPCCでJICAボランティアによるITコースが実現する。

2011/3/31 Wally 学部長さんに会い、コースの内容を proposal として提出。 Wally 学部長さんから「この内容で受講者のリクルートを始める」との回答をいただく。

2011/4/1 小澤・栗田両JVと会い、

PC trouble shooting 栗田JV

Web site development 小澤JV・手束SV

と、科目・担当を決める。

2011/4月私(手束SV)が健康診断帰国(4/4~4/29)の間に、小澤・栗田両JVがPCCとコンタクトをとり、受講生募集に必要な手続きを片付けた。

[Eligibility and Minimum Requirements]

Course I : WEB SITE DEVELOPMENT

- (1) Completion any PCC's IT basic classes
- (2) Having experiences to learn any programming languages or to use them on business [desirable]

Course II : PC TROUBLE SHOOTING

- (1) At least 2 years experience in IT section of any companies or public offices as an engineer
 - (2) Completion a PCC's IT class #115 "Operating Systems & Networks"
* fill at least one from (1) or (2)
 - (3) The people who have an ability to work together
* In this course, Students work on a problem as a team.
-

例えば上記は「受講資格」(Minimum Requirements)。必須の項目 (necessary) と「あれば尚可」(desirable) とを記述し、受講希望者は応募の際、参考にする。

4月18日、新聞・ラジオで受講生募集が公告された。すでにその前に関係省庁に対して、「今度こんなIT関連の講座を開きますよ、職員でだれか希望者いませんか？」というような打診がおこなわれた様子であった。

4月26日、「両コースとも、定員20名に達した」という連絡をいただく。

募集が始まる前は「それぞれ5・6人集まればいいけれど・・・1人とか2人とかだとみっともないな～」と心配していたので、びっくり。20名を超えて、断るケースも出ている、とか。IT関連の教育事情を反映して、潜在需要をくすぐった結果だと思われた。

2011/5/6 Wally 学部長にお願いして、教室・機材の確認をおこなった。

機材については、Wallyさんは

「CEコースではPCCは教室とPCなどの機材を提供する。受講生は受講に必要な機材は各自自分で用意するのが原則。CEコースでは受講生から受講料をとらないので、そうしている。もし有料のコースにするならば、その収入の中からPCCに必要な機材を準備・提供することは可能だ。」

とおっしゃっていて、我々JICAボランティア側の立場としては、

「低額の道具、例えばドライバなど、は受講生が持参するように指示する。」

受講生個人で購入が困難と思われる機材、例えばHUB・テスト・LANケーブルなどは、隊員支援経費を活用させていただく」

という原則で対応すること、とした。また、当然のことながら、講師料はいただかない。

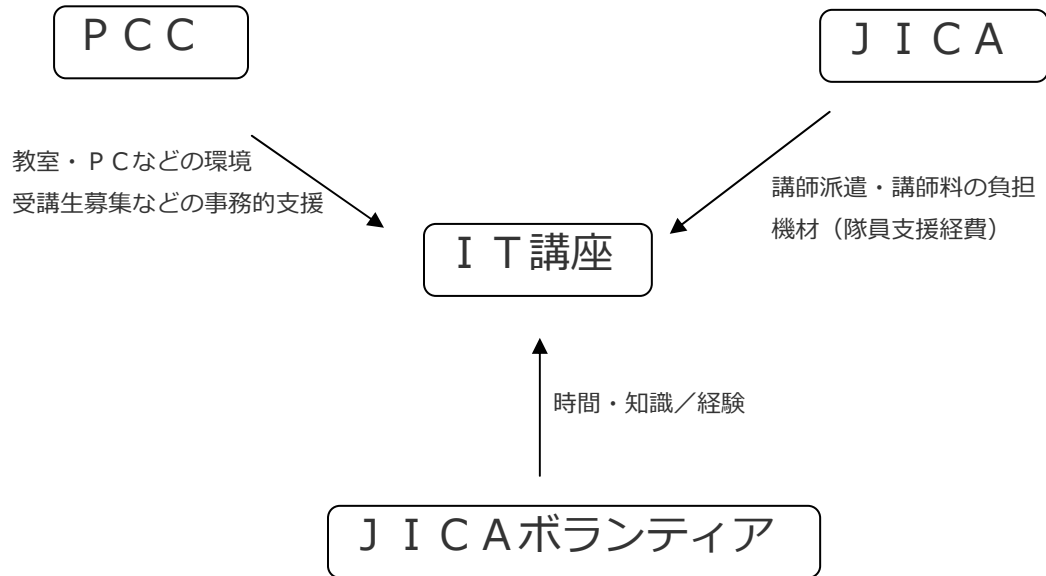
こうした合意によって、下に示すような3者の協力・協同の関係ができあがった。

講座の開始は5月23日（月）と決まり、

月曜日 18:00～20:00 PCトラブルシューティング

火曜日 18:00～20:00 Webサイト開発

で、ようやくスタートラインに立った。



2011/5/16 白井所長とともに Wally 学部長を訪ね、日程など最終確認をおこなう。

所長によれば、「保健省（MOH）から受講希望があったらしいけれど、すでに定員に達して断ったところ、『それでは別枠でこちらへ講師を派遣してもらえないか』という打診があった」と。やはりまだまだ需要は潜在している。

IT全体について言えば、日米欧はすでに成熟期にはいっているけれども、パラオはようやく黎明期を迎えただけで、なおかつハード面では台湾などの援助が見られるが、ソフト面についてはかろうじてJICAボランティアがいくつかの省庁にはいって、しかし「労務提供型」に終始して「技術移転型」への転換の難しさに直面している。このような現状で、技術移転・運用移管の見通しが立つわけがなく、まず必要なのは「技術移転ターゲット」たるべき「パラワンITプロフェッショナル」で、私たちの目標はまずこの「パラワンITプロフェッショナル」を育てる場所をつくること、にある。「人材の生産工程」に直接コミットする協力活動がパラオでは不可欠だ、という確信が私（たち）にはある。 対症療法（労務提供型活動）から根本治療（インフラ構築・技術移転・現地移管型活動）への転換、を私（たち）はめざす。

2011/5/23 開講。

パラオにおける IT 人材開発に着目し始めてからほぼ一年。 PCC の Telley 学長に直訴してからほぼ半年。ようやく PCC に最初の一步をしることができた。CE (Continuing Education) の Wally 学部長さんによると、「すでに定員オーバーしていて、まだ問い合わせが続いており、空席待ちリスト (Waiting List) に登録させている」と。確かな手ごたえに身が引き締まる。この日、6時から簡単な開講式。Wally 氏、白井 JICA パラオ所長のあいさつをいただき、最初のセッション「PC Trouble Shooting」第一回を 22-2 次隊・栗田 J V を講師として開講した。(7月中旬までの予定)



白井所長のあいさつ (左は Wally 学部長)



受講者全員と記念写真



記念すべき栗田 J V による最初の講義

翌 24 日 (火曜) には「Web site Development」も開講した。こちらは、21-1 次隊・小澤 J V が講師をつとめ、6月下旬に任期を終えて帰国したあとは 21-3 次隊・手束 S V が担当する。(8月中旬までの予定)



5/24 小澤 J V の初講義



HTML 第一回、操作指導する小澤 J V

各ボランティアとも、夕方 5 時まで配属先 (財務省・裁判所・司法省) での本業をカバーしたあと、週 2 回 6 時から 8 時までの 2 時間のレクチャー、ということで大きな負担ではあるけれども、この講座の継続・定着をめざして「今が踏ん張りどころ」と思っている。

(Mr. Wally に「次の Autumn Semester も続けて頼むよ」と言わせなければならない)

PCC の既存の IT 講座との連携も考えたいが、既存の講座は、どちらかというところ、「知識偏重型」という印象を受けている。私たちの講座は、「実習ベース」を特徴としている。というか、「2 時間英語でレクチャー」(これは我々、教壇のシロウトにとってまさに地獄だ!) にたえられる英語力に全く自信がないので、実習で時間稼ぎ、が本音だ。いずれにせよ、「いつも一歩先を見つめて」走り続けようと考えている。

最後に、ムリなお願いにイヤな顔ひとつせず協力してくださった 2 名の隊員、21-1 小澤 J V ・ 22-2 栗田 J V、およびだいじな局面でサポートしてくださった JICA パラオオフィスに心から感謝申し上げます。

追記： PCCでのIT講座を計画している間、何度か「IT部会を立ち上げてはどうか？」という打診を受け、それに対して私はのりくらりと明確な態度を示すことを避けてきました。
この場を借りて、一応私なりの考え方を示しておいて、他のボランティアの方々のご判断・評価にゆだねてみようと思います。

私が部会の立ち上げに積極的でない理由

1. 部会があることによって、ボランティアの活動形態に枠をはめるかもしれないこと
2. 逆に、部会に依存する活動スタイルを生んでしまうかもしれないこと
3. 個々のボランティアの創意工夫にブレーキをかけるかもしれないこと
4. 部会の存続自体が自己目的化してしまうかもしれないこと

などの危険性が考えられます

逆に、部会が活動にプラスの作用をもつ可能性としては、上記の危険性を全て良い方向へ展開することによって得られる要素、が考えられます。

すなわち

1. ボランティアの活動形態に適切な方向性を与えられる
2. 部会が個々のボランティアの活動スタイルに広がりを与えられる
3. 個々の知識・知恵では及ばないところまで創意工夫の幅が広がる
4. 部会の存在自体が当該業種の協力活動をプロフェッショナルなレベルに引き上げる端緒となりうる

などの可能性が考えられます

部会を造り、運用していくなかで、どちらに展開してゆくか、は

「部会を構成するメンバーが常に自覚的に部会と自身との緊張関係を維持できるか否か」

によるだろうと思います。そして、それはたいへん難しいことだろうと想像いたします。

部会創立メンバーのあとからやってくるボランティアにとっては「部会ありき」という既成の現実からスタートしますから、さらに難しいことでしょう。

「PCCでパラオ人ITプロフェッショナルを育てたい」という私たちの意思を具体化する過程で、何度も「これを機にIT部会を立ち上げてはどうか？」という打診をいただきましたが、私は個人的には、このようなプロジェクトの立ち上げのように、関係するJICAボランティアがその都度集まって知恵を出し合い、協同し、終わればそれぞれの持ち場へ帰る、というイメージを抱いていました。もちろんIT系ボランティアが「IT部会を立ち上げたい」ということであれば、協力は惜しまないですが・・・現状では、私自身に、先述したような「部会と自身との緊張」を維持する自信がまだない、というのが正直なところでしょう。